第４章
卒舎生座談会―世代を超えた語らい



卒舎生座談会―世代を超えた語らい:寄宿舎生活の思い出とこれから

日時：2025 年 12 月 13 日（土）　14 時～15 時半
場所：東京大学学生基督教青年会　OB 談話室

参加者（敬称略）：
二神 康郎（1960 年・農卒）
山口 栄一（1977 年・理卒）
山田 祐彰（1989 年・農卒）；オンライン参加
関 智征（2003 年・法卒）
西岡 宏晃（2007 年・工卒）
徳永 友花（2018 年・工卒）
太田 萌（現舎生・情理修士 2 年）
米倉 敬宏（現舎生・農 6 年）



卒舎生座談会が開催された OB 談話室
左：徳永友花さん　　右：山口栄一さん

徳永（司会）
それでは始めたいと思います。今回卒舎生座談会ということで、クリスマス祝会の前にお集まりいただいて、ありがとうございます。ちょうど世代をまたいだ交流という形で、色々な年代の方々にお集まりいただけました。本日は、東大 YMCA での思い出話ですとか、これからの寄宿者としての役割、印象に残っていることなど、自由に会話しながら楽しい時間を過ごせたらいいなと思っていますので、よろしくお願いします。まず自己紹介をしていきたいと思います。お名前と在舎した年、卒業した専攻や、今日座談会でお話ししたいことなどがあればお願いします。

山口
1975 年入舎、新舎第 1 期生（1.5 期ぐらいなんですが）で、1979 年の修士修了とともに舎を出ました山口栄一と申します。理学部物理学科卒です。京都大学の教授をやっていましたが、2020 年に定年退官し、今はオルバイオ株式会社の代表取締役をしています。よろしくお願いします。

太田
太田萌と申します。現舎生です。東京大学大学院の情報理工学系研究科のシステム情報学専攻の修士 2 年です。寮には 2024 年の 3 月から住み始め、1 年半ちょっとになります。よろしくお願いいたします。

米倉
同じく現舎生の米倉敬宏と申します。 2023 年の 5 月入舎なので、2 年弱くらい在籍していて、今年度末で卒舎する予定です。農学部の獣医学専攻の 6 年（最終学年）です。学生主事を務めています。よろしくお願いします。

二神
1957 年 9 月から 2 年半在舎しました。唯一古い宿舎、旧舎出身です。色々お話ししたいことはありますが、また後で。二神康郎です。農学部の農業経済学科卒業です。

西岡
西岡宏晃と申します。寮には 2005 年から 2007 年までおりまして、精密機械の修士卒です。その後は東京電力に入社しまして、新潟県の原子力発電所に勤務したり、海外の発電プロジェクトに携わったりしてきました。今は JERA の洋上風力の会社、JERA Nex bp という会社で、国内の洋上風力の開発をやっております。寮には 20 年ぐらい来られていなかったのですが、ご案内のメールを見て少し懐かしくなり、今回久しぶりに足を運ばせて頂きました。

徳永（司会）
私は徳永友花と申します。在舎が 2015 年から 18 年です。2014 年から女子入寮可になりまして、博士課程を 3 年間ここで生活しました。工学系研究科の建築学専攻を出ております。今は東大の農学部の附属演習林で、特任准教授をしております。東大は実はすごく広大な面積の森林を持っておりまして、国土の 0.1%を持っています。東大の 99.9%の敷地は附属演習林が持っているというキャッチフレーズがあります。そこでカーボンニュートラルなど環境の側面から森林を見るというような研究をしています。よろしくお願いします。

関
関智征と申します。 1998 年入舎だったと記憶をしていますので、 2003 年法学部卒です。今は日本キリスト教団行人坂教会という目黒駅にある教会で牧師をしております。キーワードとして「東大 YMCA なくして、我が信仰なし」。「私にとっては、イギリスの寄宿舎のような交流が現役時代にあった」「YMCA は自分にとってキリスト教主義の中高に通ったような気持ちだった」と感じています。今日はよろしくお願いします。

山田

山田祐彰さん
私は 1989 年に農の修士修了と同時に退舎しました。 3 年ちょっといました。その時同じ宿舎に三沢和彦君がおりまして、今職場が同じです。彼は農工大の統括副学長、私は農学部教授です。私にとっては YMCA との出会いは本当にひょんなことで始まりました。今東京理科大で教授をしている小林憲司君から、面白そうな寮があるから、行って面接受けてみないかと言われました。彼は敵前逃亡しまして、私だけ先に受けて入って、結局彼も後から入りました。求道者という資格で面接を受けさせていただきました。その時、馬場専務理事、加藤せつさん時代ですが、馬場専務理事が面白い問答をするやつがきたと言われて入れていただいたようです。私も YMCA の 3 年間がなかったら今はなかったなと思います。ちょうど環境問題への関心が高まり始める、バブル末期に向けた時期だったので、そちらの方のサークルに入っていましたが、彼らも卒業したら普通に就職していました。私は 3 年間 YMCA に置いていただいた間に、学生 YMCA の集まりや、国際的な会合にも出させていただいて、非常に感じるところがあって、 NGO で 3 年間プロジェクトを担当してからフロリダ大学に留学して、アマゾンに行き、現地調査をして 7 年近くアメリカにおりました。帰ってきてから縁あって農工大に入

れていただいたら三沢君がいました。林野に関しては、農工大も総面積 1000 ヘクタールの98%以上は演習林だと思います。隣に東大の演習林があります。農工大農学部は昔、東大農学部実科と呼ばれていました。私は農業経済出身ですが、フロリダ大学では森林生態の研究室に行きました。

徳永（司会）
山田さんが 1980 年代後半で関さんは 90 年代後半から 2000 年代初頭なので、ちょうどここのメンバーで世代を跨いでいるような形になっていて、すごく年代のバランスがいいなと思いました。本当に良かったです。どうもありがとうございます。
では、自己紹介も終わったところで、東大 YMCA の思い出話などをみんなで分かち合いたいと思いますが、どうでしょうか。

二神
旧舎、今のここを新舎とすれば、旧舎に住んだのは私だけだと思いますが、旧舎のイメージは、今住んでいる新舎をそのまま独立させて、更地の上にドカンって置いたようなイメージになります。木造 3 階建ての、私が入った時はもう古びていて、壁も汚れて汚かったんですけども。建物の特色としては、二舎というのがありました。西側の奥にあった別棟。別棟といっても続いているけど。部屋は和式で畳の部屋があって、そこに大学院生が、 2、3 日なんかゴロゴロと住んでいるようなイメージだった。それから、東の隅には、劇団ぶどうの会という稽古場がありましてね。そこで、木下順二というここの先輩と、山本安英という超有名な女優が組んで『夕鶴』という有名な劇を、海外を含めて 137 回公演した。僕も一回見たけど、とても芸術性の高い劇であるし、劇団だった。


二神康郎さん

関
木下さんと在寮期間は重なっていますか？

二神
いや、被ってない。全然上。ぶどうの会というのは木下順二と山本安英が作ったのですが、最初からこの YMCA が本拠地だったんです。練習場だった。だから、この YMCA をもとにこの有名な公演が作られたというのは、この建物にとって非常に忘れられないかもしれないですね。

徳永（司会）
ありがとうございます。他に何かございますか？

山口
では新舎1期のお話をしないといけませんね。東大YMCAは、その旧舎の土地の一部を売却してファミール本郷ができ、4 階までの区分所有者として東大 YMCA 新舎が誕生しました。そして、1975 年の 4 月に初めて舎生の募集がされました。僕は、1975 年の 11 月ぐらいの入舎です。


山口栄一さん

あの頃は、みんな学生は貧乏なんです。貧乏学生で大概六畳一間の下宿に住んでいるようなそういう時代です。もうおんぼろの木造の、僕もそんなところに住んでいました。そんなある日、本郷の正門の前に舎生募集の案内がありまして、ふらふらっと見に来たわけです。もう驚きました。ピカピカじゃないですか。要するにマンションです。僕らあの頃、そもそも将来マンションに住めるなんて思ってもなかったし、自分の表札が掲げられる家に住めるなんて思ってもいなかった。そんな時代です。だからこんな所に僕たち学生が住んでいいのかって思いました。入舎選考の日には 20 人ぐらいが談話室に集まりました。一人一人呼ばれて選考があって、灰本周三君と僕だけが合格したと思います。だから倍率 10 倍だと思います。それぐらい大変でした。
住んでみると、もう本当にとにかく快適なわけです。なぜかというと、プライバシーがきちんと守られた個室だからです。別に個室に閉じこもっていても誰も文句は言わない。毎日夕祷はありますけど、夕祷も参加しても参加しなくてもいいし、参加したくなったら参加するぐらいのペースで、要するに決まり事が何もない。夕食はもちろん暖かくて美味しいし、朝食は勝手にパン焼いて食べるし、こんな幸せな学生時代は他にありません。先ほど東大 YMCA が自分の人生を変えたという言葉がありましたけど、全くその通りです。
何よりも大事なことは、文理融合です。多分野の人、特に理科系の人は文科系の人と話すチャンスって普通はないわけです。東大は進学振り分けの前まではなんとか異分野の方々と話す機会はあります。でもやっぱり理Ⅰ、理Ⅱ、理Ⅲとかの間だけですから、理系が文系と話す機会はないわけです。それこそ合田さんを始めとする文系の人と初めて話して、全然考え方が違うんだっていうことをよくわかりました。
2008 年、同志社大学教授の頃に僕はケンブリッジ大学に参りまして、客員フェローとして、クレア・ホールコレッジというコレッジに住んだのですけど、毎昼毎晩食事が出ます。僕は諸外国から来た客員フェローたちと話したくて毎日食事をいただきました。もちろん学生も一緒

にいます。新しいコレッジですからハイテーブル・ローテーブルはなくて、学生もすぐ隣に来たりする。それでものすごく親密になるわけですね。そもそも隣に来る人は約半分が文系で、英国国教会史とかヨーロッパ哲学史の話題になるわけですね。 1 時間半その中で過ごさなきゃいけない。苦労します。だけど、やっぱり 東大 YMCA の経験があるから、すごく楽しかったですね。このケンブリッジでのコレッジというのは、あ、これは東大 YMCA と同じだと思いました。だから、ここ東大 YMCA はケンブリッジ大学のコレッジに他なりません。
東大 YMCA こそが僕のそれからの人生を形作ったなと今でも思います。学問の境界を飛び越えて文系の人と隔たりなく喋ったり議論できるのは、もうここのおかげですね。

徳永（司会）
ありがとうございます。さっき二神さんのお話を聞いて、昔は木造だったんだなと思いました。そこから旧舎から新舎になる時に立て替えたんですね。


徳永友花さん

山口
そうです。岩井要さんの設計で、一番大事にしたのが礼拝堂で、礼拝堂は旧舎と同じ設計仕様にしたと聞いています。旧舎は見たことないんですけど、工事の期間中は、舎生はバラバラに住んだって聞いています。清水正之さんとか篠原正雄さんとかは、旧舎から新舎にも住んでくださって、旧舎の DNA を受け継ぎたいという思いで。新舎には 4 人くらい旧舎の方がいらっしゃいました。

徳永（司会）
工事の期間はみな違うところに住んでいたのですね。旧舎の方が入舎希望者の面接をされたのですか？

山口
それは興味深くて、舎生全員で面接するんです。ですから、僕の面接をしてくれたのは、篠原さんをはじめとする旧舎の人たちプラスそれまでに入っていた新舎生の 7、8 人ですね。舎生全員が面接官だったのですね。

徳永（司会）
今も変わらず、全会一致の面接だったんですね。今は、だんだん老朽化みたいな話も出てきて

る中で、新舎がピカピカだったというお話を聞いて、昔はすごいみんなが喜ぶ、憧れのところだったということですが、現舎生の方はどうですか。

米倉
そこにある模型（写真 1）は旧舎ですか？



写真 1　OB 談話室に飾られた旧舎の模型

二神
あれは旧舎です。道路に面してた。

米倉
すごい立派ですね。立地はどこにあったんですか。この近くですか。

二神
この建物のちょうど中心にあったんです。今上にマンションがあるでしょ。それ全部 YM の土地だった。その上にどんと建物が乗っていた。だから途中で建物を売ってビルを建てた時に、非常に有利な条件で建てられた。

太田
だからこのように、自由に作れたんですね。

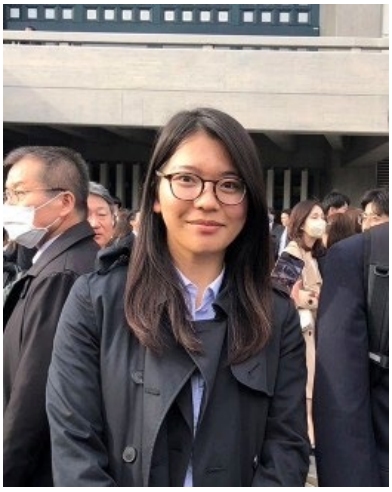
関
あまり議論は逸れたくないですが、その有利な条件というのは等価交換方式でしたか。

山口
土地を区分所有にして、土地の一部を売ってここの権利を得るという感じですかね。

関
それが今ファミール本郷の理事会でゴタゴタしてるから、新築もできないって言うんですよね。

山口
それはそうではなくて、文京区が高さ規制を入れたからだそうです。 7 階しか建たなくなった。そうすると建て替えようとすると 8 階以上の人の住処がなくなっちゃうんですよね。だから建て替えの話は頓挫してしまっていると聞いています。

米倉
壁紙とか入り口のセキュリティが結構ゆるい感じは多分昔からだったと思うんですけど、色々やっぱり時代の変化というか、安全性の色々な問題とか最近多いということで、そういう点も含めて、時代に合わせて修繕も必要です。2014 年から女性が入ってきたことで、今現状女性の方もいらっしゃるんですけど、やっぱり設備面で追いついてない部分があります。そこをどうしようかということで理事会中心に話していただいています。そういった部分で、まだ時代に追いつけてないなというところは、どうしてもその通りですね。


太田萌さん

太田
私が入った時点では、男女別とかも何もない状態で入ったので、私としては特に嫌な思いをしたこともないですけど、以前女性専用のお風呂があるかという質問をされた方がいて、なかったらいいです、というようにメールで問い合わせされた方が 1 人いらっしゃいました。やっぱり気にされる方は絶対的に存在するので、広く開かれた場所を目指すんだったら、やっぱそういうのはあった方がいいだろうなとは思いますね。でも、私個人としては、この寮に見学

に来た時は、結構年期が入っているというか、古いなと思ったんですけど、意外と住んでみると、住めば都というか、特に支障なく暮らせておりますね。

徳永（司会）
私も 2015 年入舎なので 2014 年ぐらいに初めて来て見学しましたが、なんかもっと寮って言ったらすごくもっと年季入ったようなイメージがあった中で、それに比べたら、これならっていうような気持ちはありました。個室っていうのも、研究室行ったり戻ってきたりというように、自分のペースで生活できるっていう意味ではすごく良かったなと思いました。あとすごくやっぱり治安が良かったですね。私がいた時は、お財布とかが礼拝堂にあったら、届けてあげなきゃという風にみんなが困惑する。盗られるんじゃないかとかではなくて。私がいた時は、盗難事件とかは全然なかったですし、たまに外部からちょっと変な人が入ってきたとかいうのは、まあ年 1 回ぐらいあったんですけど、比較的寮の中が治安よく過ごせたっていうのは、すごく大きかったなと思いますね。

太田
徳永さんが入られた時は、女性が入るようになってから何年目だったんですか。

徳永
2 年目ぐらいですね。でも女性はそんなに少なくはなくて、 3 割ぐらいは女性がいました。今よりもしかすると多いかもしれないですね。

関
私の世代も、正面玄関の鍵はかけてなくて、各部屋もほとんどの学生が鍵しないんですよ。でも盗難とかなくて、多分その古き良き最後の時代かもしれないですね。だから YMCA っていうのは鍵しないでもお互い守られてる場所、結構私の時もそういう感覚がありましたね。でも、外に行くと、やっぱり戦いがあるっていう意味で、なんかこの家みたいな守られた感じがあって、当時加藤せつさんが事務局で門野さんという方がお料理で私にとっては東京の母親が 2 人いるような、家で守られているような感覚だったんですね。それはね、感謝しますね。

米倉
家って意味では、今の扉が木製の扉で、かつ、隙間があるんですけど、僕は個人的に意見があって、あれは確かに今騒音みたいな話が出ていて、どうしても音漏れという面では問題ですが、一方で、それは逆に鉄扉とかにしてしまった場合に、結局予算的に無理って話になったんですけど、それはちょっとなんか意味合いが違ってくる。やっぱりどうしてもそれで仕切られる。個人個人の家というか、それがやっぱり寮としてのこの暮らしとしては、やっぱりなんか違う

と思っている。いまのその「家」という意味では、なんか音の入り、漏れ具体も結構しっくりきているぐらいだと思っている。難しいところもあるんですけど。



米倉敬宏さん

二神
さっきのぶどうの会についてちょっと付け加えると、今日クリスマス祝会じゃないですか。その時必ずぶどうの会のメンバーが出てきて、セリフだけだったけど出演してくれて、もうすごく上手くてね。やっぱりプロとアマじゃ大違いで、良かったですね。もう一つ、ぶどうの会の、團伊玖磨という有名な方が音楽責任者でした。その人の息子がこの間 11 月の会館竣工 50 周年記念式典で話された。あの人は建築家の團紀彦さんで、その團伊玖磨さんの次男です。

山口
僕と一緒に住んでいた仲間です。僕の一年後輩で、新舎 2 期生です。

二神
だからそういう意味で、ぶどうの会というのは、やっぱりこの YMCA と、非常に深い繋がりがあると思うんですよね。ぶどうの会の「ぶどう」というのも、はっきり聞いたわけではないけど、聖書にぶどうってたくさん出てくる。だからそこから来たんじゃないかっていう気もするんですよね。

山口
その頃、旧舎時代は、舎生は劇をやっていましたか。

二神
やってましたよ。

山口
じゃあ 2 本立てなんですね。すごいですね。

徳永（司会）
歴史が長いんですね、舎生劇は。

山口
そうすると劇の伝統は今もありますか。

徳永（司会）
あります。

関
ありますか、よかった。なんか一時期、クリスマス合唱がなくなったって噂があったかと。

徳永（司会）
合唱が少し減ったんですよね。

太田
3 階と 4 階で分かれて、対決するのがなくなって、全員で歌う全体合唱だけになりました。一時期、人数も少なくなってしまった時もあるので、多分そこでちょうど分かれる合理性みたいなのが多分なくなっていって。

関
私の時代、本郷 3 丁目の近江屋で大きいケーキと小さいケーキ買って、

徳永（司会）
今も買いますよね。

太田
でも今は大小をつけなくなって、普通に買うようになりました。あまり勝った方が大きい方とかそういうのもなくなりました。

徳永（徳永）
それ私の世代までありました。コロナぐらいからな、なくなったんですよね。コロナ前の最後の世代なので。

関
クリスマス会の劇と合唱は自分の中ですごい糧になっています。というのは、私はキリスト教の家庭でもないし、幼稚園から高校までキリスト教の学校でもなかったので、YMCA に入って初めてキリスト教文化に触れたんですね。賛美歌も知らない聖書も知らない。その中で劇をさせてもらった。今でもセリフを覚えているんですね。劇はぜひ続けてもらいたいなと思います。クリスマスの歌も合唱コンクールがあるからもう一生懸命練習するんですよ。それで、スターバックスとかスーパーマーケット行った時に「あ！これキリスト教の賛美歌だ」ってYMCA に入ってから気づけるようになったんです。自分にとって YMCA はキリスト教主義の学校に通ったようなものだったというのは、全然キリスト教家庭じゃないところから、劇や賛美歌とかでキリスト教文化に馴染めた、それが結果的に洗礼まで在舎した時に結びついたことに感謝しているところです。


関智征さん

山口
ちなみにその時の劇はどんな劇だったのですか。

関
それが聖書の劇じゃなくて、私はカッコー役なのですが、主人公がチェロを弾く・・・なんですかね。屋根の上のバイオリン弾きかな。

山口
じゃあ誰かが脚本を書いて。

関
舎生で脚本も書いていました。教会で今クリスマス劇とかちっちゃい子やるじゃないですか。そのセリフ覚えたり。「聖書を教えるのに劇を演じさせるっていうのが、一番教育的にいい」、というんです。今日はその感謝を伝えに来ました。

徳永（司会）
ありがとうございます。今でもセリフ覚えているっていうのは、すごいですね。

太田
すごい。去年劇やりましたけど、去年でもちょっと覚えてないです。去年はちょっと 2 人だったので。

徳永（司会）
そうなのですか。年によってはすごい少なくなっちゃいますよね。今年は 10 人いますよね。

山口
西岡さんの時代は劇やっていたのですか。

西岡
劇はやっていたと思います。私がいたのは 20 年ぐらい前なのですが、やはり学生の自治というのが印象的でした。私は駒場の時は世田谷区の春風学寮という内村鑑三に所縁のある無教会派の学生寮に入っていたのですが、本郷に来てから海外留学して日本に戻ってきた時に、少し家庭の事情もあって住むところを探していたら、旧知の友人が YMCA に入ってみたらと声をかけてくれまして。今でも覚えています。面接で皆さんの前に座って色々と質問を受けたときに、「神様を信じますか。」と聞かれたのですが、うちは少し複雑で父親が禅宗で私は長男なのです。それで母親がクリスチャン。両方見てきて、家的にはクリスチャンにはなりきれないのですが、でも神様は一つかと思い、「うちの家は禅宗なのですが、神様は共通ではないかと思いますので、勉強させてもらいたいと思います。」と答えました。それで面接は落ちたと思ったのですが、結果的には受け入れて頂きました。本当に卒業するまでの 2 年間、友人に恵まれたと言いますか、今振り返ると本当に悪い人がいなかったように思います。部屋なども開けっ放しでしたし、心から安心して暮らせたというのはすごく貴重な時間で感謝しています。その頃には女性を入れるかどうかという議論も少しあり、我々のときはまだ想像ができる時代ではなかったですけれど、今はこのようにご一緒されていると聞いて、時代と共に変わっていって素晴らしいなと思いました。ただ今日は久しぶりに来てみて設備が全体的に古くなっているような印象も受けましたので、もし寄付などを募るようなことがあれば、少しでも寄付をさせて頂ければと思います。


西岡宏晃さん

山口
募金のチェック欄に、『リノベーションに使う』という欄が増えました。実際に今年度の理事

会でリノベーションが決まりまして、もうすぐ着手します。1 階と 2 階で。礼拝堂と 2 階は完全にリノベーションをします。それも團紀彦さん監修で。

徳永（司会）
ちょうどこの 1 年ぐらいで、募金の活動に力入れていて、会報の中にも一緒にご寄付のお願いっていうのを入れさせていただいているところです。

二神
募金といえば、この新舎を建てる時に、やっぱり募金活動をしましてね。僕は、その募金活動の委員の一人でね。2 人 1 組で OB のお宅を回りました。ところが、中にはつれない人もいたりして、困った記憶がありますね。

関
二神さんご自身は福音派的な御茶ノ水の教会に行かれて、今は信濃町の日本キリスト教団ですが、当時は住んでいた人の教会行っている人の教派とかどんな感じだったんですか ？

二神
あんまり意識にしないですね。まあ、大きく言えるのは受洗者と洗礼受けてない人というという区別はあったけどね。それだって特にこうだからどうのこうのということはなかった。ただそれを超えて、考え方の違いというのがあった。やっぱりこちらとしては、クリスチャンとして、変な行動をしていたら説得力がないわけだから、その点では、厳しい生活をしましたね。2 年間半の間は、あんまり変なこともできないし、証って言うと大げさだけど、そのために自分でしなきゃいけないことというのは考えながらやっていましたね。

山口
そのテーマは大変面白いです。ここの募集要項は『キリスト者もしくはキリスト者たらんとする者』というたった一行の募集要項じゃないですか。もちろんキリスト者の人はもう堂々と入って来られますけど、そうじゃない人たちはやっぱり『キリスト者たらんとする者』と書いてあるので、ホッとして受けに来るわけですよね。このキリスト者たらんとする者というのがあるというのは、この東大 YMCA の良いところで、この曖昧性がある種の多様性を生んでいるなと僕は思います。それを感じたのは、関西に東大 YMCA の支部がありまして、山本彼一郎さんという弁護士の方が支部長をされていて、彼が自己紹介の時に「私は今でもキリスト者たらんとする者です」とおっしゃるんですね。それで場がパッと和んで。あ、これが東大 YMCA だなという気がしました。

二神
今はちょっと基準が緩くなってね。たらんとするものじゃなくて、関心がある人というのが条件みたいになっている。

山口
理事会でも話題になりまして、学生理事の方が『関心のある』というような、もう少し緩い表現にしましょう、みたいな話があった時に、結構議論になりました。議論になるということは、そういう方向に向かっているなとは思います。

太田
キリスト者たらんとする者の方が、解釈の仕方が人によって様々で、広がりがあるというのはすごく理解できるのですが、一方で、この現代、この環境においてはなかなか理解されづらいというか、ハードルを高く感じやすい。面接の基準でも、公式的なものではないですが、キリスト者たらんとする者というのを関心がある者と、同義にするという形をとっていますよね。

米倉
とっています。これも個人差があるんですが、基本的に全体としてはそうですね。

山口
それはいいことなのか悪いことなのかというのはどうですか。

米倉
まず現実的に、本当に厳密な意味でのキリスト者たらんとする者に絞ってしまうとかなり寮運営という意味でも、やっぱり難しくなってしまう。そこを落としていくと、また（現舎生の人数が）10 人切ってくるか、そのぐらいの数になってくるので、現実としてその基準を適用するのは難しいというのがあります。一方で、確かに関心があるというのは幅があるので、空気感として触れたいというだけなのか、本当に結構自分の中で強い関心があって入る人と結構幅があったりして、そこの判断も難しい。

太田
あと、受洗していない人がかなり多い現状において、そういう人がキリスト者たらんとしていないと判断することのハードルがおそらくすごく高いですよね。あなたはキリスト者たらんとしていないですというように判断することは、結構難しいです。

米倉
正直に言う人もいますが、大体はまあ関心があると繕う。普通の人は、関心をある程度示すので。

山口
僕はキリスト者たらんとする者という言葉はすごく美しいと思っていて、関心のある人も包含するという意味においてね。だから僕は結論として、それでいいんじゃないかなと思うんですけどどうでしょうか。

太田
私もそれは思います。いいのですが、応募する側からとすると結構難しいです。結構面接の中でもキリスト者たらんとする者の解釈で揉めたこともありますよね。

米倉
もちろんあります。自分が応募する時も、ちょっと違うなと思いつつ、ちょっと怖いというか。

太田
これが認められるんだろうか、みたいなものがあって。

関
私が入ったのは 25 年、30 年ぐらい前ですが、私は「教養としてキリスト教を学びたいんです」と面接で言ったんです。それで 1 回落とされたんですよ。2 度、寮の入舎面接を受験したんです。YMCA に「浪人」しているんですけど、2 度目の受験の時は、もっと実在的なこと、「自分がロサンゼルスに行って何も伝手がない時に、求めなさい探します。叩きなさい開かれますという聖書の言葉でドアをノックしていたら、いろんな道が開かれました」みたいなをこと言ったら、 2 回目は通りました。教養として聖書を学びたいというのも、全然私は「キリスト者たらんとする者」だと思うんですけど、当時落とされましたね。

米倉
きっかけがどうであれ、どう転ぶかわからないという考えも一方であって、どこにその道が開かれるかというのは、やっぱり意図せず繋がる部分というのはあるので。極論言ってしまえば、誰でも開かれていると言ってしまえば、それはそうなんですけど、今は面接で、やっぱりある程度、関心の程度がないと、運営にも支障が出てくるという点でも結構現実路線で自分は考えています。

関
ぶっちゃけ一緒に住んで大丈夫な人がどうかというのは見ますよね。自治寮ですからね。

西岡
私は拾って頂いたようなものであまり偉そうなことは言えないのですが、面接は学生たちが行い、全員から OK をもらう必要があるということは、逆に言うと、寮に入ると自分が必ず面接する側にもなるわけですので、そのディスカッションのときには自分が問われているような気もしました。やはりキリスト者（たらんとする者）というのが軸に置かれていたように思いますが、こうあるべきだとか、ここは違うのではないかと、はっきりした意見が出てくると、軸を強く持って生きている方は素晴らしいなと感じることもありましたし、他方、この人も入ったら変わるかもしれないとか、あの言葉はもしかしたら何かを求めているのではないか、といったように人の可能性に思いをはせる包容力のある発言もあったりして、そのプロセスのなかで選ぶ方も選ばれる方も色々と考えたり学んだりするものがあったように思います。

山口
そうですね。そういうことですね。

関
そうなったらいいですよね。私の時代、選ぶ側がなんかちょっと上から目線で「こいつはキリスト者じゃない」みたいなのがあって、「お前何様だよ」みたいなのがありました。面接する側も問われているんです。神様に。

徳永（司会）
私も 3 年ぐらいいましたけど、やっぱりその 3 年の中でも基準って統一されてないなと感じたんですよね。あ、この人前だったら落ちていたかもしれないなっていうようなことはありましたね。3 年の中でも感じたので、きっと何十年の歴史の中でもあるんだろうなとは思います。関さんも 2 回受けられたというので、もちろん内容も変わったのかなと思うんですけど、タイミングとかその時の面接官とか、全員人なので罪人というのもありますし、そういうのはすごく私も感じましたね。

山口
私は社会人になってから、アメリカに 1 年間赴任した時に、洗礼を受けたわけですけど、帰ってきて清水正之さんが「山口君が洗礼を受けるなんて思ってもみなかったよ」っておっしゃったんです。つい最近です。だからやっぱり見抜かれていたんだって僕は思いました。

徳永（司会）
山口さんは、卒業してから洗礼受けられたのですか。

山口
僕は、ここに住んでいる間はキリスト者になることに反発していました。キリスト者たらんとする者であろうとしていました。それで、29 歳になってから、アメリカに赴任した時に洗礼を受けたんですけど、もう一度、実は今はキリスト者たらんとする者に立ち返ろうと思っています。

関
よく教会でも洗礼受けていない人のことを「求道者」、洗礼受けた人のことは「教会員」と言うんですけど、洗礼受けても私は求道者だと思うんですよね。道を求め続ける。洗礼を受けたから私は真理を全て知った、ゴールじゃなくて、私も今でも求道者だと思っています。キリスト者たらんとするものだと私も思っています。

徳永（司会）
オンラインからだと入りづらいかもしれませんが、山田さん、どうですか。

山田
懐かしい議論だなと思いました。私も京都大学 YMCA に行かせていただきましたが、大先輩の方々が一生懸命、一度学生運動に乗っ取られた寮を守っておられるという感じはありました。せっかく東大 YMCA のような貴重な場が今まで続いていて、これからも続けていくのにはどうしたらいいかということで、皆さん色々と考えを巡らせていらっしゃるんだと思います。多分同じような課題を抱えているところがいくつか他にもあると思うのですが、今は学生 YMCA を通じた他学の YMCA との交流はないんですか。

米倉
あります。学 Y というので、寮がある一橋とか早稲田とかはもちろんなんですけども、サークルとして活動している立教とか清泉女子大学とかも含めたものはあって、総務部の学生が行ったり、舎生が行ったり、ちょこちょこ交流はしています。この間、早稲田の信愛学舎に何人かで伺って、お互いの寮事情みたいなところを話したりしました。今はわからないですけど、信愛学舎が一時期 5 人とかで大変な状況だったみたいです。そのようにちょこちょこ交流はしている感じです。

山田
私も総務部だったんですけど、そういうことを東大Ｙに持ち帰って、舎生の方々と共有する場が大事なのかなと。私は個人的には『たらんとする者』で馴染んでいたんですけど、あんまり敷居を低くしてしまうのは難しいところですね。退舎に関する規定はないですよね、入っちゃったらもう。

太田
在舎延長はありますね。

米倉
ありますね。一応、入って２年でそこで全員再審査というのがあります。

徳永（司会）
一応入寮面接と同じ厳しさを求められます。

山田
再審査ですか。そういうのが出来たんですか。

徳永（司会）
在舎延長なかったですか。じゃ問題かなにかがあって、そういう規定が途中で出来たかもしれないですね。

山田
それはびっくりですね。さっき泥棒の話が出て驚いたんですけれども、私の時はそんなこともなければ、再審査して落とすようなことも、まずなかったですね。いつも満舎でしたから。今半分しかいない状態ということで、どうしてって思います。私の時は男子だけで満舎だったんです。だからどうしてそういう風になっているのかなってびっくりしました。

太田
倍率がすごく高くて選ばれしものだけが入れていたんですね。

関
狭き門の。

山口
それはあるかもしれません。

関
私の 2000 年ぐらいってもう寮の人数が、ガクっと減ったんですよ。それで、留学生枠とか広げてどうにか 10 人以上キープしようとするんですけど、感じるのはやっぱり増えている時もあって、減っている時もあって、また増えたり減ったり、どうにか今まで守られてるのは、もちろん先輩方の OB の支えもありますけど、やっぱり神様が、この人数を守ってくれていると感じます。

山口
今 19 人で、割と増えているんですよね。

徳永（司会）
一時期もうちょっと少なかったですけど。

太田
10 人切るんじゃないかという話はありましたよね。

関
よかったです。（現舎生が）増えて。私の時にはプロテスタントもいればカトリックもいたんです。無教会の方もいました。聖公会の方もいましたし、別に洗礼を受けてない方もいて、その多様性が本当に今の私にも糧になっています。私自身は YMCA の時に最初日本キリスト教団の教会に寮の友達に連れられて行ったんですよ。でも洗礼を受けたのは、武蔵野福音自由教会という福音派だったんです。それで 10 何年経って今呼ばれて、日本キリスト教団の牧師になったんですね。やっぱり当時 YMCA で色々な牧師さんを呼んでいたんですけど、この人素晴らしい人だなと思えば、日本キリスト教団、福音派、ペンテコステ派、誰でも呼んでいたんですが、それは YMCA の良さかなと思っています。だから今私日本キリスト教団の人間ですけど、福音派の皆さんとも仲良くしているのは、YMCA の時に色々な教派の友達がいたという原点にあるな。今もそうですか、皆さん行っている教会は。

米倉
カトリックの方もいらっしゃいますし、もちろんプロテスタントも。無教会はいらっしゃらないかな。福音派もいらっしゃらない。多分カトリックかプロテスタント、あとアングリカンはいらっしゃいますけど、どれかですね。

二神
洗礼を受けているのが半分ぐらいですか。

米倉
半分もいない。3分の1ぐらいかと思いますね。

徳永（司会）
私がいた時は、たまたまかもしれないですけど、洗礼受けている人の方が結構多かったです。やっぱりクリスチャンホームで育っている人は、知識量とか全然違いますね。私は一世なので、本当にノンクリスチャンの人と同じぐらいの知識量と言ったらなんですが、やっぱり2世3世の人は賛美歌を知っている量も全然違うし、聖書の箇所とかもすごく頭に入っていて、すごいやっぱり叩き込まれているなという感じはしましたね。そういう人たちが私の時は多かったなという印象はありましたけど、今はちょっと減ってきているんですね。それも時代によりますよね。

太田
そうですね。洗礼受けている人も結局留学生が多かったりしますね。

米倉
そうですね。日本人は今は一人かと思います。

徳永（司会）
西岡さんの時はどうでしたか。

西岡
あまり誰が（洗礼を）受けている、受けていないというのは気にしていない雰囲気だったように思います。カトリックとプロテスタントも、あまりお互いに区別するような感じではなく、逆にクリスマスのときなどは、今年はうちの教会にみんなおいでよとか、新しく入った人にあの牧師の先生の話が面白いから今度みんなで聞きに行こうよとか、そういう感じだったような気がします。

徳永（司会）
そうだったんですね。私の時も色々な教派の人いました。私は昔北海道に住んでいて、東京に来た時に色々な人たち、出身地域や教派も違うけど、なんていうか、同じ神様のことなんだな

っていうのはわかったんですよね。同じ神様の話をしているなっていうのは、すごい感覚的なものではあるんですけれども、それぞれ神様に対しての向き合い方というのは違うんだけれども、北海道で洗礼を受けた時に、色々教会で関わってきた神様と同じ存在のものをみんな信じているんだなというのを感じて、お祈りとかもそうですけれども、やっぱりそういうところが、YMCA のいいところかなと思いました。一つの神様という存在をみんなで認識して向き合うというところ、そういうのが良かったなというのは今お話してて思い出しました。

関
徳永さんが前お話してくれた、長野で YMCA の OB の朴先生の教会を、現役の舎生みんなで遊びに行ったみたい話。そういうのが YMCA の良さかなと思って。私の時代は常務理事が徳久さんだったんですよ。徳久さんは九十九里に別荘を持っておられて、毎年夏に現役の寮生を招待してくれたんですよ。徳久さんが親戚のおじさんみたいな感じでした。ご飯をお嬢さんと一緒に振る舞ってくれたりして。逆に私は息子が 18 歳になって、学生に対して徳久さんみたいなことをしてあげたいなというのがこれからの目標ですね。

徳永（司会）
すごくわかります。私も全く知らない若い人に東大 YMCA 出身です、という感じで来られたら、もうなんか家族みたいな認定しちゃいます。

山口
それでいいんじゃないですかね。だからやっぱりキリスト者もしくはキリスト者たらんとする者という基準でいいし、両者が混在していていいし。要するに同じ釜の飯を食うので、お互いに信頼しあえるというそういう関係性がずっと一生続くというのはいいことですよね。
先程も申したようにそれは、ケンブリッジ大学のコレッジと全く同じ感じですね。ケンブリッジって、ケンブリッジ大学出身だというだけでは、お互いに信頼し合わないんですよね。お前どこのコレッジって言って、同じだと分かると信頼し合う。

関
私は牧師ってこともあるんですけど、YMCA に求めるのは、やっぱりキリスト者たらんとする者として、吉野作造先生のように、東大生がキリスト者になるための箱、器として、YMCA に用いられてほしいな、と思うんですよ。自分自身がノンクリスチャンで入って、在寮中にキリスト者になった。自分のような学生が神様に起こされたらいいなというのは、自分の願いです。そのために現役寮生の方に何かできることあれば、喜んでしたいなという思いはあります。もちろん、現役の時に私みたいに住んでいるうちに洗礼を受けなくてもいいと思うんですけどね。卒業された後、何年かしていろんな人生の壁に当たったりなんとかで 10 年後 20 年後 30 年後

に、あ、YMCA にそういえば住んでたな、ちょっとクリスマスに教会でも行ってみようみたいな、そう思ってくれる人がこの現役の方でも出ればいいなとは思いますね。

徳永（司会）
そうですよね。なんか神様のことを今バーっと説明して、すぐに洗礼を受けるとかではなくて、それがなんか心のどこかに留まっていて、将来神様を思い起こすきっかけになるとか、そういうことですよね。YMCA がそういう場であってほしいなという気持ちはあります。舎生が減ってどうするってなった時に、色々門戸を広げる話になって、キリスト者という条件を撤廃するかとか、女子入寮の時もそうなんですけれども、東大という限定を取るかとか、色々な議論があるんですけれども、やっぱりキリスト者というところが、守られているというところが、いろんな年代の方々、皆さんそうなのかなというところもあって、これからも守りたいところかなというのは感じるところですよね。

関
私の時代は早祷だったんですけど、早祷が本当に良くて。やっぱりこの日本の教育で自分を表現する場って意外と少ないんですよ。歌を聞かせてもらったり、劇を見てもらったり、自分をプレゼンテーションしたり。早祷は、私の時 15 人ぐらい住んでいたので、 15 日に 1 回は回ってきました。別に聖書の話をしなくても、自分の専門の研究の話とかをする人もいました。他の学生の、自分と違う専門の話をする話もすごい勉強になりました。その時に私と一緒に住んでいた福島一生さんが、「関さんの早祷のトークは日常のさりげないことと、聖書の真理を架け橋してくれる。そのジャンプのロジックが面白い」と言ってくれたのが、牧師になりたいと思ったきっかけなんです。

山口
いつから夕祷から早祷に変わったんですか。僕らの時は夕祷なんです。少なくとも 1980 年代ぐらいまでは夕祷ではないでしょうか。夜 10 時から。3 階と 4 階に分かれて。

西岡
私のときは早祷でした。

二神
早祷。

徳永（司会）
変わっていったんですね。90 年代後半より前ということは、山田さんの時は、どうでしたか。

山田
私の時は夕祷でした。

徳永（司会）
まだ夕祷なんですね。90 年代のどこかで変わったということなんですね。

山口
なんでだろう。夕祷だと 10 時に帰ってこなくてはならないからかな。

米倉
院生が増えてきたんですかね。

山口
でも朝起きられないんじゃないですか。早祷、何時からですか、

太田
8 時からですね。

米倉
一限の人がいる場合はちょっと調整しますね。多分今はいないです。

山口
いずれにしても、そうやって言葉で、みんなの前で自分の心底の思いを喋るというのは、ここでしか経験していないですね。あとはないです。社会の中でもないし。大学でもないし。

徳永（司会）
山口さん、先ほど 3 階と 4 階に分かれてと言われていましたけど、分かれてやったんですか。

山口
分かれてやっていました。3 階と 4 階別々にやっていたと思います。祈祷室ってあるでしょう。そこだけカーペットが敷いてありました。本当にみんな好きなこと喋っていましたね。失恋した話とかね（笑）。

二神
僕の時は、1 階 2 階 3 階とそれぞれ別れて早祷をやっていました。早祷やると何か書かなきゃいけない。それがね、全部あそこ（写真 2）に綴じられている。



写真 2　製本された早祷・夕祷資料

関
これ貴重な歴史資料なので、ぜひ理事会でデジタル化の検討をしてもらえませんか。万が一の資料なので、ぜひ火災リスクとか紙が劣化するリスクとかに備えて。

太田
階で別れてやっていたら、入ってからずっと聞かない人とか出てくるんじゃないですか。

関
部屋を移動しない限りそうですよね。

山口
どうやればいいんだろう。もうちょっと AI が進歩して手書きの文書をパッとデジタル化して

くれればいいんだけど。
僕は新舎の 1 期生として入舎した時に旧舎の資料が、ある部屋に全部段ボールで山積みになっていたんです。僕の趣味は「整理整頓」だったので、講義の合間の時間を見つけては、全部段ボールを開けて、4 階の談話室を全部使ってどんどん整理していったんですね。整理し終わったらこれをぜひとも製本したいなと思って専務理事の馬場さんにお願いして、あの 30 万円ぐらいくれませんかって言ったんですよ。そうしたら、いいよって言ってくれて。それで、あの東大法文 2 号館の地下の製本屋のところに全部持って行ったんですよ。製本して後から見つかったりしているノートがあるので、ちょっとどこか抜けているのがあって、それは申し訳ないなと思っています。

二神
じゃあそこにあるのは、山口さんが全部製本したんですか。

山口
私が台車に全部乗せて持っていって製本しました。楽しかったです。

関
これのおかげで、6 年前に天に召された OB の駿河敬次郎先生というお医者さんに治療してもらったんですけど、その戦中の資料とか、こちらから拝見させてもらったんですよ。感謝しています。

山口
それは役に立って嬉しいです。

二神
一人でやられたんですか。

山口
一人でやりました。誰もそんな整理が趣味の人いないですから（笑）。楽しいですよ。こうやって重ねていくとだんだん揃ってきてね。構造や景色が見えてくるんです。一番楽しかったのは、日直ノートの製本でした。日直ノートは新舎になってから始まったんですね。いっぱい汚れとかシミがついているんですけど、これは日直になった人が夜中に書くんですよね。 12 時頃に全部玄関のカギを閉めてそれから書くんです。だから、夜中に酔っぱらっていたりして書いているから、結構みんな自由奔放に書いていたんです。あれが素晴らしかった。日直ノートの最初の 1975 年から 1979 年ぐらいのものを僕がまとめたんですけど、ものすごく面白いんで

すよ。本音が言語化されていて。たとえば仰ぎ見ていた清水正之さんが結構いろいろ本音で書いている。僕は日直ノートで叱られてずいぶん鍛えられました。歴史的な価値のある資料だと思います。

関
YMCA は緩くあってほしいなと思うんです。私の時までは大学とかも学部生の時まではギリギリ緩かったんですよ。半期 15 回のうち 7 回ぐらい休講している教授がいたりとか。今文科省的にもできないですね。非常に大学も緩かったし、もぐりとか、そういう文化がギリギリあった時代です。YMCA も緩かったんですけど、今は大学とかは文科省の縛りとかでキツキツになっていますけど、せめて YMCA は緩いままでいてほしいなっていうのはあります。私にとっては旧制高校の香りが感じる場所なんですよ。自分の専門以外の話も聞けて、うだうだ生活と関係ないような、なんか無駄な話が実は教養になっているみたいな部分あったので、そういう旧制高校の文化がほのかに香っているこの寮の緩さは維持してほしいなと感じますね。昔の旧制一高寮とかもすごく緩かったらしいですもんね。

徳永（司会）
今学生めちゃくちゃ忙しそうにしていますよね。勉強したりアルバイトしたりとか。

山口
これから東大 YMCA はどうなっていくといいか。
僕はケンブリッジ大学のコレッジから学ぶといいと思います。たとえば、ケンブリッジのコレッジでは夕飯の時間が、6 時半から 7 時半って決まっているんですよ。7 時半までに行かないとパシャってシャッターが閉められる。それでかけ込みます。すると、みんな揃うんですよ。全員が揃って 8 時ころ食い終わったらまた理系の学生は実験に行くわけですね。ところが東大 YMCA は結局食堂に置きっぱなしになっていて、 11 時ぐらいまでに帰ってきて冷たくなってしまった夕食を食べるという感じでしょ。だからあれ 6 時半から 7 時半に食べようよって揃えると、案外もっと同じ釜の飯を食う感があるかなっていう気がします。

関
懐かしいです。確かに私も、洗礼を決心したのが、マイケル・ジョンストンというニュージーランドからの留学生だったんですけど、彼も私もいつも 6 時半に食べるという習慣があったので、ご飯食べながら、「聖書これ違うんじゃないかとか」など私が議論を突っかけて、彼が牧師の息子として答えてくれて。なので、ここの食堂での会話がどんな神学校よりも自分の糧になっていますね。

徳永（司会）
そうなんですよね。食事の時間になんかすごく仲良くなりますよね。色々と話しをする時間になりますよね。

関
今食事は美味しいですか？

太田
美味しいです。

関
なんて方が今作ってるのですか。

太田
今小幡さんという方です。昔は住み込みでやってくださる方がいらっしゃったんですか。

山口
新舎の 1 期の時は、小泉さんという女性で、とても美味しかったです。住み込みじゃなかったですね。住み込めたんですけど、住み込まなかったです。近くの方だと思います。

徳永（司会）
私の時は片桐さんっていう方でした。片桐さんは住み込んではなかったですけど。

二神
僕の時には、住み込みでしたね。

西岡
朝晩の食事があるのは有り難いですよね。

山口
パンはセルフですか今も。

太田
朝晩で、今も一応セルフサービスでちょっと凝ったものを作ってくださっています。

徳永（司会）
グレードアップしてますよね。フルーツが付いていたり、すごいですよね。

太田
バリエーションが豊かというか、毎日違ったものを出していただいたり。

徳永（司会）
クリスマス祝会の時に、プレゼントを準備するというのが毎年あるんですよ。誰か舎生がプレゼントを決めて買いに行って、祝会の時にお渡しするんですよね。

関
あるんですか、よかった。いつもサーブしてもらっているので、たまには学生からサーブするんですね。

西岡
我々の時は、夜 11 時頃に食事が残っていたらそれは誰が食べてもいいというルールでしたので、お腹の空いた人達が集まってくる時間帯がありましたね。そこで色々な会話をしたことも懐かしい思い出です。料理の上手な友人が、皆に料理を振舞ってくれることなどもあって、それも良い思い出です。

米倉
多分夜行性人間がいて、結構集まる時間が分かれていたりしますよね。

山田
私の頃は、自分たちで食堂で調理できたんですけど、今はどうなんですか。

徳永（司会）
今もできます。

山田
私は馬場さんに愛農会の大学講座とか、聖書研究会に行かせていただいて、そこでパン種をもらってきて、天然酵母パンを色々食堂で作ってみんなにごちそうしたんです。せっかくその設備があるのでしたら、月に 1 回でも外から関心ある人に来てもらって、ごちそうを振舞って、私の頃は留学生がよくやっていたんですが、こんな所だけどどうって関心を持ってもらえたらいいのかなと思いました。また寮に入りたいという人が増えてくれたらいいですね。やはり食

べることは非常に大事なので。私はそれで農学部に入りました。今日はどうもありがとうございました。

徳永（司会）
ありがとうございました。それではちょうど時間になりましたので、これで終了したいと思います。みなさん、本日はお集まりいただいてありがとうございました。

（編集：　徳永 友花）

卒舎生座談会参加者一覧



二神康郎
（1960年・農卒）



山田祐彰
（1989年・農卒）



卒舎生座談会が開催されたOB談話室

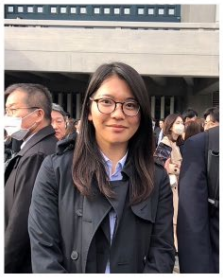
左：徳永友花　右：山口栄一
（2018年・工卒）　（1977年・理卒）



関智征
（2003年・法卒）



西岡宏晃
（2007年・工卒）



太田萌
（現舎生・情理修士2年）



米倉敬宏
（現舎生・農6年）